

## 私も同じ景色を見たい

小学3年生の時に会った先生がきっかけで学校の先生に憧れを抱くようになり、教員という職業に就きたいと思うようになりました。しかし、中学時代にたくさんの職業があることを知り、私はどんな仕事をしたいのか考え、悩み始めました。高校3年生の進路決定の時期になっても迷っていました。その当時の学級担任であったK先生に心境を話すと、なぜ先生が教員をしているのか教えてくださいました。「教員という仕事は本当に大変な仕事です。学級のこと、授業の準備、部活動の指導、この他にも仕事があります。特に3年生の学級担任になると、これらのことに加えて進路指導があります。時には、遅くまで、休みの日までしないと終わらないし、自分の好きなこともできません。それでも続けているのは、立派に成長して巣立っていく姿を見られるからです。卒業式のあの感動が忘れられない。もう一度という思いになるからです。」と話してくださいました。先生のこの言葉を聞いて、「どんな景色なのだろうか。」「私も同じ景色を見たい。」という気持ちが強まりました。そして、私は小学3年生で会った先生のようになりたいと思っていた時期があったこと、仕事は大変だけど、その先には素晴らしいものがあることを教えてくださいました先生がいたから、小学校の教員を志すようになりました。自分の教えた子どもが卒業する時は、どのような気持ちなのだろうか。私も味わいたい。卒業式の時期になると、この出来事を思い出します。K先生に出会わなければ、他の進路を選択していたと思います。一人前になって先生に会った時には、感謝の気持ちを伝えたいです。

甲斐 千尋

(一般)